

岐阜県支部

美濃市商業活性化のための調査研究

長い平成不況から脱し、ようやく個人消費に明るい兆しがみえてきたものの中小小売業は大規模店舗や新業態店舗の台頭による競争激化の狭間で翻弄され、依然、厳しい経営環境にある。一方、日本経済の仕組みそのものが大きく変化しつつあり、地域商業のあり方においても独自性を求められるようになってきた。

美濃市商業の歴史は古く、美濃地方の中心都市として室町時代から栄えてきた。江戸・明治・大正・昭和初期には全国的にも有名な和紙の産地として多くの豪商を輩出し、往時の佇まいが『うだつのある町並み』として保存されている。平成 11 年 5 月に、うだつのある町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、『美濃和紙あかりアート展』も本年度で 12 回を数えるなど、内外に広く知られるようになった。また、昨年、東海環状自動車道が開通し、東海北陸道とを結ぶ美濃関 JCT が完成したことにより、中部圏はもとより関東・関西圏とも短時間で結ばれる好立地環境となった。

そこでこの度、美濃市商店街及び商店をより快適な魅力ある買物場所とし、地元購買の強化と観光客数の増加を図るため、美濃市商業の現状と問題点を調査し、今後の美濃市商業のあり方に関する具体的な方策を提言することとした。

内容は 5 部に分かれ、第 1 章 美濃市の概要では市の概要、第 2 章 美濃市商店街の実態では、商店経営の実態と商店経営者の意識、消費者及び在勤者の買物行動と意識、商店街歩行者通行量の調査結果を集録、第 3・4 章 実態調査結果から問題点・課題を抽出し、将来のタウン・商品構成ポジショニングを提案、第 5 章の美濃市商業活性化構想では、美濃市商業活性化のためのより具体的な提言を行った。

具体的には、美濃市商業振興のコンセプト「非日常的な楽しさを持つ専門性の高い商店街 - 元禄文化の再現」を目指し、集中的に目の字地区を活性化させることで周辺商店への波及効果を図ろうとするものである。街区のゾーニング（うだつの上がる町並み・インテリア・飲食ゾーンの 3 区分とすることで観光客の滞留時間を長くする工夫）楽しさの演出・集客のための仕掛けづくり（駐車場の確保、元禄を髣髴させるランドマーク、遊歩道の設置、スタンプラリー、1 店 1 品運動の展開、あかりアートの夏休み期間の開催等）について構想を展開し、さらに商業活性化を推し進める原動力となる個店の対応（協力体制、専門店化等）について言及した。

以上、この提案が美濃市商業活性化の一助となれば幸いです。